

平成30年度 学校自己評価システムシート（県立所沢北高等学校）

目指す学校像	叡智育成・自主自律の理念のもと、学習・部活動・学校行事を奨励する中で豊かな資質を伸ばし、高い志を掲げて社会に貢献できる人間を育成する学校
重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 高い志と学力を育み、進路希望を実現させる 「文武両道」を日々実践し、充実した学校生活を実現させる。 情報発信を積極的に行い、開かれた学校づくりを推進する。

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し

学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

A	ほぼ達成（8割以上）
B	概ね達成（6割以上）
C	変化の兆し（4割以上）
D	不十分（4割未満）

出席者	学校関係者	9名
	生徒	18名
	事務局（教職員）	24名

学校自己評価						学校関係者評価	
30年度目標				30年度評価（2月26日現在）		実施日（平成31年 3月11日）	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<ul style="list-style-type: none"> 学力向上を目指し、授業時間の確保と部活動等との両立のため65分授業を実施している。入学時より確かな学力を身につけさせる系統的な指導を行い、進路第一志望実現を目指している。引き続き、高いレベルで教育課程の検討、授業力向上の取り組み、生徒の学習習慣の確立、結果分析の共有・活用方法の構築が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導の充実と学習習慣の確立 主体的、自立的な進路選択力の育成 	<ol style="list-style-type: none"> 生徒の高い学力と教員の授業力向上のために外部研修への参加を積極的に行い、研修情報を職員間で共有する。 新しい大学入学共通テストに対応できる教育課程を検討する。 時間の有効活用を通じ、1日の中での勉強と部活動の両立を生徒に意識させる指導を行う 進路行事、LHRを通して将来を考えさせる中で体系的な進路学習を行いキャリア意識を高め、社会に貢献できる人材を育成する。学年や時期に応じた的確な進路情報を精選して提供し、模試や実力テストでは個に応じた結果分析を実施する。 定期考査や実力テスト、模試等で生徒が計画に準備、テスト後の解き直しが出来るように習慣づける。 高大接続改革について、情報を収集し職員間で情報の共有を図る。ポートフォリオの活用の仕方の検討を行う。 	<ol style="list-style-type: none"> 外部研修会の参加割合が50%以上になったか。 共通テストに関する職員研修会が開催できたか。 生徒アンケートにおいて、学校生活の充実度・満足度が上昇したか。 -1 進路行事の内容充実が図られたか。 -2 的確な結果分析を行い、活用が図られたか。 学習計画表、解き直しノート等の活用が定着できたか。 研修会への参加率、ポートフォリオの充実が図られたか。 	<ol style="list-style-type: none"> 外部研修会参加者数は引き続き高い水準だった。内部研修も実施した（2回）。新しい授業法への取り組みも積極的に行い、彩の国教育週間、未来を拓く「学び」推進事業の公開授業を実施した。 大学入試共通テストに対応できる教育課程を検討し編成した。授業満足度は高く、前年以上の生徒アンケートの評価があった。 定期考査、実力テストを見据えた、計画・準備ができるようになりつつある。学ぶことの目的意識を高め、授業レベルを保障したシラバスの編纂をおこなった。学期ごとのクラス別科目時間数の差を1時間以内に抑え、年間授業展開数の均等化を実現し、平常授業をできるだけ確保した。 進路行事、進路LHRは計画通り実施できた。多様な課題に対応できる、新たなキャリア教育に取り組んだ。 実力テストや模試の過年度比較を行い、三者面談時の志望校検討に活用した(2年・3年)。実力テストに向け志望校を掲げ、目標、計画を具体的に立て、準備して受験するようにした。解き直し時間を試験直後に確保した。 外部講師を呼んで高大接続改革に関する校内研修会を行い、職員間での情報の共有を行った。ポートフォリオの活用に向けて準備を行った。(1年)。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 研修結果の活用の充実を図るための、フィードバック方法の検討。 アクティブラーニングなどの授業研究を進め、教員全体の授業力の向上を図る。 大学入試改革に向けて生徒の進路希望の実現のため毎年度教育課程の改善に向けた検討を行う。 将来に対する目的意識を早期にもたせ、自ら計画的に、学習に取り組めるようにさせる。 年間の授業時間の確保に努める。理数科2年生の課題研究の時間確保に努める。 キャリア教育の改善にさらに努める。 大学入試改革に向けた情報を収集し、進路行事にフィードバックさせる。 解き直しの意識を高め、その後の学習の計画に活用させる。
2	<ul style="list-style-type: none"> 全職員の共通理解のもと、統一した生徒指導体制が確立されてきている。多くの生徒が基本的ルールを守り良好な生活状態で、学習、部活動、行事活動にそれぞれ意欲的に取り組んでいる。一方で、生徒の自己管理意識の育成を図ること、さらに主体的・自主的に行動する能力の育成が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的生活習慣の確立 生徒会活動・部活動の充実 	<ol style="list-style-type: none"> 校則の遵守の徹底を基本に、ルールやマナーの大切さを各生徒指導計画（登校指導や遅刻防止指導、下校指導、服装・頭髪指導、着崩し防止指導、自転車指導等）を通じて指導する。 全職員の共通理解を重視し、生徒指導における相互連携に努める。必要に応じた個別相談や外部機関連携等を行い、生活面・メンタル面の指導にあたる。ネットトラブル防止教育、交通安全教育、薬物乱用防止教育を実施する。 生徒一人一人が生徒会活動全体において、意見を持ち、学年を越えた交流を通じて行事等がより盛んになるように助言する。部活動が一層活発となるための指導を継続していく。 	<ol style="list-style-type: none"> 指導計画が全て実施できたか。 指導の効果が表れ、課題の改善がみられたか。 生徒会活動全体の中で、主体的な意見の交換やチームワークでのスキルアップが見られたか。 部活動の加入率や学校行事への満足度において、高い水準を維持できたか。 	<ol style="list-style-type: none"> 全教職員が本校の生徒指導に対する共通理解をし、それに基づく指導の継続により、ほとんどの生徒が基本的生活習慣が身につけてきている。 計画的に生徒指導が実施され、全教職員も協力体制ができてきている。各種講演会では外部講師の導入等により充実した指導が実施できた。また、学年や他分掌、外部機関との連携協力を図り、生徒指導上の問題を抱えた生徒に対して臨機応変な姿勢で指導することができた。 生徒と教員で意見交換をしながら、生徒会本部役員や実施委員会の生徒を中心とする行事の運営ができた。体育祭は運営面で不十分な面があった。文化祭では来場者数が昨年到现在に続き、来校者が約6,000人であった。生徒会活動（走馬燈の発行も含め）を所北生として、誇れるものとしている。部活動についても引き続き90%以上の加入率で学校生活全般にわたり充実させたいという姿勢が窺える。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 計画的な生徒指導により、さらに生徒の基本的生活習慣の遵守継続を図る。 ネットトラブル等多様な生徒指導上の問題について研修を積み重ね、また、学年や他分掌、外部機関との連携協力を図る。全教職員の共通理解のもとに、引き続き生徒一人ひとりにとって安全安心な学校づくりを目指す。 生徒会諸活動が前年度の踏襲だけにならないよう、良い部分は継続できる力と改善、改革を絶えず検討する意識を高めたい。
3	<ul style="list-style-type: none"> 「所北を考える会」(学校評価懇話会)を中心に、年に2回、教職員・生徒・保護者・学校評議員で課題を共有し、討論する中で開かれた学校づくりを進めている。今後は、課題の分析や改善のための方策、進捗状況などについて、地域・保護者にわかりやすくフィードバックすることがさらなる課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 信頼に応える学校づくり 情報の発信 	<ol style="list-style-type: none"> 「所北を考える会」(学校評価懇話会)で、生徒代表が発言しやすい環境を醸成するべく、運営方法の改善を図る。 課題に対する改善に向けた方策等についてのフィードバック方法を工夫する。 開かれた学校づくりの一環として授業公開を行い、地域住民や保護者へ、回覧板、HP、連絡メール等で周知・広報する。 HPや進路・学年通信、PTA広報誌等を通じて、部活動の活動状況を含め学校の情報発信を充実させる。あらゆる機会をとらえて、理数科の最新情報を継続して発信する。 	<ol style="list-style-type: none"> 「所北を考える会」の運営を工夫できたか。 改善に向けた検討や報告ができたか。 授業公開の参加者が増したか。 -1 HPや通信等で定期的な更新や配信ができたか。 -2 理数科の情報発信は、生徒募集に効果があったか。 -3 保護者への情報発信が浸透し、学校行事への参加数が増したか。 	<ol style="list-style-type: none"> 「所北を考える会」(学校評価懇話会)の運営では、生徒がテーマを設定し、小グループでの話し合いを行った。学校評価に関するアンケートも総点検し、PTA理事の参加率も向上した。 課題や改善策については、PTA理事会での告知、生徒会通信、HP等様々な手段を通じてフィードバックを行なった。 授業公開については県の事業とリンクさせたり、上級学校訪問等を組み込み、従前を上回る実施となり、授業参観者が増加した。 理数科通信等を定期的に発行し、あらゆる機会を通じて中学校等に配布した。また、HPの日々更新を行うことで、定期的かつ日常的に閲覧していただけるようになり、学校説明会や上級学校訪問の参加者の増加にもつながった。事前周知と伝達手段の工夫により、保護者の行事参加は、堅実に増えてきている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 地域連携では、部活動を生かした交流以外にも福祉施設、国際交流等に関する幅広い貢献が展開できてきている。地域からは学習支援に係るニーズも高まっているため、その声に応じてボランティアで参画する生徒が出てきた。生徒の活動の幅が広がってきている。今後さらにこの流れを押し進めていく。 今年度はHPによる更新を日常的に行っている。今後は項目の見直し等、さらなる充実に向け改善を図り、速やかな情報発信と地域・保護者の学校への理解と行事参加を推進したい。

学校関係者からの意見・要望・評価等

- 教員が良く研究しており、新しい授業法等を積極的に取り入れている。授業見学する度毎に改善充実が図られている様子がわかる。
- 授業における更なるICT活用促進を期待する。
- 様々な進路先に対応できるカリキュラムを期待する。
- 今後も外部研修会への積極的参加等を継続してほしい。
- 個に応じた進路指導の継続を望む。
- 入試改革対策の継続を望む。
- 早い段階から進路について意識を涵養し具体的に先を見通させる指導が素晴らしい。
- 所北を目指している所謂「文武両道」を実践し学習習慣を確立させることは永遠の課題。

- 基本的生活習慣が身につけている。
- 教員と生徒の双方が北高生の目指す姿を共有している。
- スマホの適正使用について今後も継続して指導して欲しい。
- 登下校マナー向上について指導継続を望む。また学校外でのランニング等で生徒同士での注意喚起の声掛け等を通行人への気遣いがあると更に良い。
- 部活動加入率90%超は素晴らしい。先生方の支援により充実した取組がされておられ益々の活躍を期待する。
- 例えば所北OBに7人制ラグビー日本代表選手がいる。そのような方を招いて報告会を企画してはどうか？
- 所北生は地域の子供の憧れである。今後も地域での貢献をお願いしたい。

- 「所北を考える会」は有意義。生徒と教員の自由な対話の雰囲気が良い。
- 地元中学校等への学習支援や部活動交流等地域との連携を今後も継続してほしい。地域としても更に温かく見守って欲しい。
- 学校公開と懇話会は保護者にとって貴重な機会であり継続を望む。特に今年度初めて実施された学年事業参観、保護者会はよい取組。
- HPの更新が頻繁になり北高の良さが伝わっている。今後も継続を望む。
- エアコン使用に係る運用指針の検討を望む。